

1870



1960

レーニン生誕 90 周年記念

レーニン

新しい型の革命的
プロレタリア党について

レーニン

新しい型の革命的
プロレタリア党について

外文出版社

北 京

レーニン 新しい型の革命的
プロレタリア党について

1960年 10 月 初版発行

定価 50 円

出 版 者 外 文 出 版 社

中 華 人 民 共 和 国
北 京 阜 成 門 外 百 万 荘

編号：(日)3050—388

00068

目 次

- 一 共産党はマルクス主義の理論を指針とする
党であり、マルクス主義の革命的
綱領をもつべきである…………… 1

マルクスの理論に導かれる党だけが先進闘士の役
割をはたすことができる……………1

党は革命的政治綱領をもつことによつてのみ、い
かなる情勢の転換にもその方針を堅持し、革命家
相互間の連繫をうちかため、大衆を革命の側にひ
きよせることができる……………5

党の綱領の核心はプロレタリアートの階級闘争を
組織し、この闘争を指導し、プロレタリアートに
よる政治権力の獲得と社会主義、共産主義の実現
のため闘うことにある……………7

党の綱領は党の終局目標を規定すべきであり、部
分的な利害にとらわれて全般的な利害をわすれて
はならず、闘争の個々の段階の特殊性にとらわれ
て闘争全体の根本的な任務をわすれてはならな
い。一国のプロレタリア闘争の利益は、全世界の
範囲でのこの闘争の利益に服すべきである……………9

- 二 党は権力の革命的奪取を
実現しなければならない…………… 13

終局目標をとげるためには、党はかならず政治権

力が労働者階級の手に移るようにすべきである…… 13

もちろん、労働者階級は平和的に権力を掌握する
ほうをえらぶであろうが、権力の革命的奪取を断
念するということは、ブルジョアジーとすべての
有産階級とにたいする恥ずべき譲歩を意味するに
すぎないであろう…… 15

三 党はすべてを指導しなければならない…… 19

党の指導があるばあいにはじめて、絶対主義を打
倒し、共産主義革命にとりかかり、プロレタリア
ート独裁を実現することができる…… 19

党は国家の政治的、経済的活動全体を指導すべき
である。政治は経済にたいして優位を占めざるを
えない、党はなによりもまず政治的に大衆を指導
して社会主義の経済的基礎を確立し、国民経済ぜ
んたいの管理を自己の手に集中すべきである…… 22

党は文化教育活動を指導し、これをプロレタリア
ート独裁の諸任務の一部と見なし、それが幾百万
幾千万の勤労者に奉仕するようにすべきである…… 26

党はブルジョア・インテリゲンツィアに共産主義
の精神を植えつけ、彼らを改造しなければならない
。彼らに自分の精神を植えつけ、自分の創意の
火をつけ、党の精神を植えつけなければならない…… 30

四 党は革命的大衆運動を全面的に支持し、こ の運動を拡大すべきである…… 35

大衆の革命的エネルギーは革命の勝利のもつとも 深い源泉である……………	35
党はマルクス主義的綱領によつて大衆を教育し、か れらを広はん革命闘争へひきいれるべきである …	38
党は、社会主義の事業が真に大衆運動となるよう に、大衆の創意を大胆に發揮させるべきである…………	41
党は共産主義的準則を大衆の意識に深くしみこま せるため、共産主義的規律と共産主義労働を着実 に実施するために働こう……………	47

五 党はもつとも権威のある、経験のゆたかな 指導者を必要としている…………… 51

もしも党が最も影響力のある、経験のゆたかな指 導者をもたなければ、プロレタリアート独裁は空 文句にとどまるであろう……………	51
党の指導者——それは最も権威のある、経験のゆ たかな革命家であつて、つねに大衆の革命的な自 主活動に先んじ、複雑な政治的諸問題を速かに正 しく解決することができる……………	52
すべての革命的大思想家は被抑圧階級の大運動の 経験にまなぶことをおそれなかつた。だんことし て党の指導者を擁護し、敵の恥しらずな中傷を粉 砕する……………	55

六 党は日和見主義および修正主義と妥協のな い闘いをすすめるべきである。社会改良を

主張する古い型の党を根本的に新しい型の
革命党に改造すべきである…………… 58

日和見主義者は革命の理論を否認し、どんな革命的綱領も、革命的な政党も、革命的な戦術も必要としない、彼らは単一の民主主義党を渴望し、改良の道、階級協調の道を平和的にすすもうとする…………… 58

党は例外なくすべての闘争舞台で日和見主義に反対する政治方針を徹底的に貫徹し、改良主義的な古い型の党を、真に革命的な新しい型の党につくりかえなければならない…………… 66

七 新しい型のプロレタリアートの政党は、階級的、意識的、戦闘的な、大衆とのつながりをもつ、規律ある革命政党である…………… 69

一 共産党はマルクス主義の理論を指針とする党であり、マルクス主義の革命的綱領をもつべきである

マルクスの理論に導かれる党だけが先進闘士の役割をはたすことができる

われわれは完全にマルクスの理論の基礎に立っている。この理論こそ、はじめて社会主義を空想から科学にかえ、この科学の確固たる基礎をうち立て、また、この科学をさらに発展させて、すべての細目にわたって仕上げるにあたり、すすむべき道をあらましめしたものである。

.....

革命的理論がないなら、強固な社会主義党はありえない。革命的理論はすべての社会主義者を統合するものであり、この理論からして社会主義者は、自分の確信のすべてを汲みとり、この理論を自分の闘争方法と活動方式とに应用するのである。自分の理解のおよぶかぎり真理と考えられる理論を、いわれのない攻撃や、この理論を改悪しようとする試みから擁護すること

は、あらゆる批判の敵となることをまだけつして意味しない。われわれはマルクスの理論を、けつしてなにか完成された、不可侵のものとは考えていない。その反対に、この理論は、社会主義者が生活にたちおくれたくないならばこんどさらにあらゆる方向に前進させなければならない一つの科学のかなめ石をおいたにすぎないと、われわれは、確信している。

「われわれの綱領」（1899年の後半）。「レーニン全集」第4巻

労働者の階級的運動の旗じるしとなりうるのは、革命的マルクス主義の理論だけであつて、ロシアの社会民主主義派は、この理論をさらに発展させ、それを実現することを心がけると同時に、「流行の諸理論」がきわめてしばしばこうむりがちの歪曲と卑俗化（そしてロシアにおける革命的社會民主主義派の成功は、すでにマルクス主義を「流行の」理論にしている）から、それをまもらなければならない。

「ロシア社会民主主義者の抗議」（1899年8月末～9月初め）。「レーニン全集」第4巻

革命的理論なくしては革命的運動もありえない。流行の日和見主義の説教と、実践活動のもつとも狭い形態への心酔とが、抱合しているような時代には、どれほど強くこの思想を主張し

でも主張したりない。しかも、ロシアの社会民主主義派にとつては、人のしばしばわすれがちなつぎの三つの事情のために、理論の意義はさらにつよめられる。第一には、わが党はいまようやく形づくられつつあり、いまようやく自分自身の個性をつくりあげつつあるところで、運動を正しい道からそらす恐れのある他の革命的思想傾向との対決をおわるにはまだほど遠いのである。それどころか、（すでにずつと以前にアクセリロードが経済主義者たちに予言したように）まさにごく最近の時期こそ、いろいろの非社会民主主義的な革命的傾向の復活を特徴としていたのである。こういう事情のときには、一見「重要でない」ようにおもえる誤謬がこのうえなくかなしむべき結果を引きおこさないともかぎらないし、ただ近視眼的な人間だけが、分派間の論争や、色合いの厳密な区別だてを、時宜に適しないとか、無用なことだとか、考えることができるのである。どの「色合い」がつよまるかによつて、ロシア社会民主主義派の将来がこんご多年にわたつて決定されることになりうるのだ。

第二に、社会民主主義運動は、その本質そのものからして国際的である。これは、われわれが民族的排外主義とたたかわなければならないことを、意味するだけではない。これは、若い国にいまはじまりつつある運動は、他の国々の経験を摂取してはじめて成功できるということをも、意味する。しかし、この

ように摂取するためには、たんにこの経験に通じていたり、たんに最近の諸決議を書きうつすだけでは、たりない。そのためには、この経験を批判的に取りあつかい、それを自主的に検討する能力が必要である。だれでも、こんにちの労働運動がどんなに巨大な成長をとげ、多くの枝にわかれているかをおもいうかべるなら、どれだけの理論的勢力と政治的（同時にまた革命的）経験とのたくわえがこの任務の遂行に必要であるかを、理解するであろう。

第三に、ロシアの社会民主主義派に課せられている国民的任務は、世界のただ一つの社会主義党もまだ当面したことのないようなものである。あとでわれわれは、全人民を専制のくびきから解放するというこの任務がわれわれに負わせている政治上・組織上の義務について述べるおりがあろう。いまは、先進的な理論に導かれる党だけが先進闘士の役割をはたすことができる、ということ、を、指摘するだけにとどめたい。

「なにをなすべきか？」（1901年秋から1902年2月）。「レーニン全集」第5巻

われわれの綱領全体は、科学的な、しかもまさに唯物論的な世界観のうえにたてられている。

「社会主義と宗教」（「ノーヴァヤ・ジーズニ」第28号、1905年12月3日）。「レーニン全集」第10巻

党は革命的政治綱領をもつことによつてのみ、いかなる
情勢の転換にもその方針を堅持し、革命家相互間の
連繫をうちかため、大衆を革命の
側にひきよせることができる

党を建設するためには「統一」をさげぶだけでは足りない。
さらに、政治的綱領を、政治的行動の綱領をなにかもたなければ
ならない。解党派、トロツキー、フベリヨード派、ポーラン
ド人、党維持派ボルシエビキ（?）、バリのメンシエビキその
他等々のプロツクは、はじめから恥ずべき失敗におわる運命を
になつていた。というのは、それは無原則性、偽善および空文
句のうえに打ちたてられていたからである。そしてまた、慨歎
する人々は、彼らがだれとの統一をのぞむのかという、もつと
も複雑で、もつともむずかしい問題を自分自身のために解決す
べきであろう。もし解党派との統一をのぞむのなら、どうして
それを気取つた身ぶりなしで言わないのか？ もし解党派との
統一に反対であるのなら、いつたい彼らはどのような統一のた
めに慨歎しているのか？

「党に反対する解党派」（「ソツィアル-デ
モクラート」第26号、1912年5月8日）。
「レーニン全集」第18巻

綱領がなければ、ありとあらゆる情勢の転換にもかかわらず、つねに方針を堅持することのできる多少ともまとまつた政治的組織体としての党は、ありえない。当面の政治情勢の評価にもとづき、こんにちの「難問題」に正確な答をあたえる戦術方針がなければ、理論家のサークルはありえても、行動する政治体はありえない。「活動している」、現在問題となつてい、もしくは「流行の」思想的＝政治的諸潮流にたいする評価がなければ、綱領も戦術も死せる「条文」と化する恐れがある。そのばあいには問題の核心を理解したうえで、「なにがどうなるか」ということを理解したうえで、綱領と戦術のこれらの条文を実行にうつし、無数のこまかい、具体的な、いな、もつとも具体的な実践上の諸問題にそれを適用することは、とうてい考えられないのである。

「選挙カンパニアと選挙綱領について」
（「ソツイアル・デモクラート」第24号、19
11年10月18日）。「レーニン全集」第17巻

……綱領は、われわれの基本的な見解を定式化し、われわれの当面の政治的任務を正確にさだめ、煽動活動の範囲を標示すべき当面の諸要求をしめし、煽動活動に統一性をあたえ、煽動活動をひろめまたふかめ、煽動を小さな、ばらばらな要求のための部分的、断片的な煽動から、社会民主主義的な諸要求の総

体のための煽動へたかめなければならない。いまや社会民主主義的活動が、すでにインテリゲンツィア社会主義者と自覚した労働者の双方の、かなりに広範な範囲をふるいたたせているときには、綱領によつて彼らのあいだの結合をかため、そうすることによつて彼らのすべてに、こんごの、いつそう広範な活動のための堅固な土台をあたえることが、緊急の必要である。

「わが党の綱領草案」（1899年末）。「レーニン全集」第4巻

しかし、革命は急速に団結させ、急速に啓蒙する。革命が發展していく一步一步は、大衆を目ざめさせ、大衆の真の、切実な利益を首尾一貫して、あますところなく表現している唯一の綱領たる革命的綱領のがわへこそ、おさえがたい力をもつて大衆を引きよせる。

「民主主義革命における社会民主党の二つの戦術」（1905年6～7月）。「レーニン全集」第9巻

党の綱領の核心はプロレタリアートの階級闘争を組織し、

この闘争を指導し、プロレタリアートによる

政治権力の獲得と社会主義、共産主義の

実現のため闘うことにある

すでに述べたように、この綱領の核心は、プロレタリアート

の階級闘争を組織し、そして、プロレタリアートによる政治権力の獲得と社会主義社会の組織とを終局目標とするこの闘争を指導することにある。

「われわれの綱領」（1899年の後半）。『レーニン全集』第4巻

われわれは社会民主主義派の任務はプロレタリアートの階級闘争を組織し、この闘争に協力し、この闘争の必然的な終局目標をさししめし、この闘争の遂行方法を規定する諸条件を分析することにあると、考える。「労働者の解放は労働者自身の事業でなければならない」しかし、われわれは、社会民主主義派を労働運動から分離しないと同時に、社会民主主義派の任務がすべての国におけるこの運動の利益を全体として代表することにあること、また社会民主主義派があれこれの時期、あれこれの場所でこの運動がおかれるあれこれの個々の局面にたいする盲目的な拝跪に陥つてはならないことを、わすれてはならない。われわれは、現存の国家・社会体制に反対するあらゆる革命運動を支持することを社会民主主義派の義務と考え、労働者階級による政治権力の獲得、収奪者の収奪および社会主義社会の組織を、その目的と考える。

「『イスクラ』および『ザリヤー』編集局の声明草案」（1900年春）。『レーニン全集』第4巻】

党の綱領は党の終局目標を規定すべきであり、部分的な利害にとらわれて全般的な利害をわすれてはならず、闘争の個々の段階の特殊性にとらわれて闘争全体の根本的な任務をわすれてはならない。一国のプロレタリア闘争の利益は、全世界の範囲でのこの闘争の利益に服すべきである

だからこそ、社会民主党が革命的プロレタリアートの党として、自己の綱領にあれほど注意ぶかい態度をとり、自己の終局目標——勤労者の完全な解放という目標——をずっとまえからあらかじめあれほど念入りに規定し、この終局目標を切りつめようとするあらゆる企図にたいしてあれほど油断のない態度をとっているのも、まったく当然である。同じ理由で、社会民主党は、こうも教条主義的なほど厳密に、空論家のように頑固に、些末な、目前の経済的・政治的目標を終局目標から区別している。いつさきのために、完全な勝利のために戦うものは、小さな達成によつて手をしばられないように、道を踏みはずさないように、また、まだかなりさきのほうにあり、それなしにはあらゆる小さな獲得がなんの価値もなくなるものをわすれさせられないように、用心しないわけにはいかない。これに反して、ブルジョアジーの党にとつては、たとえその党がもつとも自由

を愛し、もつとも人民を愛するものであつても、綱領についてのこの配慮、小さな漸進的な改良にたいする永久に批判的な態度は、理解できないし、縁のないものである。

「政治的詭弁」（「フペリョード」第18号、1905年5月18日）。「レーニン全集」第8巻

この不変の真理を、社会民主党は、つねに全力をあげてプロレタリアートと全人民のなかにひろめることにつとめてきた。自由のための真の闘争、すなわち大衆的な闘争は、種々さまざまな、しばしば予想もつかない諸段階をとおつてきたし、これからもつねにとおるであろう。闘争が非常に困難で、その任務が複雑で、闘争するものの顔ぶれが一定しない結果、そういうことにならざるをえないのである。プロレタリアートの闘争のあらゆる発展段階で、またあらゆる情況のもとでこの闘争を指導するさい、労働者階級の志向の意識的表現者である社会民主党は、この闘争全体の全般的・基本的な利害をたえず念頭においていなければならない。労働者階級の部分的な利害にとらわれて全般的な利害をわすれてはならず、闘争の個々の段階の特殊性にとらわれて、闘争全体の根本的な任務をわすれてはならないと社会民主党はおしえている。

「権力のための闘争と施しものための『闘争』」（「フペリョード」第17号、1906年6月14日）。「レーニン全集」第11巻